

人 気 女 優 2 2 歳

第五卷

婦人集団と全裸の記念撮影

海老沢 薫 著

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 秘湯で放置プレイ

■ 海老沢薫 BLOG

■ 海老沢薫 Web 連載小説

※ 海老沢薫 BLOG

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種
コンテンツ情報を配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ 著作権について
「人気女優22歳 第五巻 婦人集団と全裸
の記念撮影」（以下本書と表記する）の著作
権は「海老沢薫」にあります。

・ 本書のすべての内容は、日本の著作権法、
及び国際条約によって保護されています。

・ 「海老沢薫」が事前に書面をもって許可し
た場合を除き、本書の一部、または全部を、
あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファ
イル、ビデオ、テープレコーダー）により複
製、流用、転載、転売することを固く禁じま
す。

・ 著作権の侵害につきましては、著作権法第
61条などの罰則がありますのでご注意ください
い。

■ まえがき

人気女優・神里美優は、弱みを握る女芸人・北原貴子の指示で深夜バラエティの露天風呂ロケに出演し、中年男たちとの卑猥なゲームの末に絶頂を強いられた。罰として朝まで全裸で放置された美優のもとへ、早朝、二十人近い婦人集団が訪れる。彼女たちは美優を囲み、体を触り、秘部を弄り、ついにイカせた。さらに尻文字を描かせ、全裸オナニーを命じ、過激なポーズでの記念撮影を強要。弱みを増した美優は、婦人たちが去った後も自らを慰め、北原に発見される。

数日後、北原からヘアヌード写真集のオフアールが舞い込む。公共の場で撮影するという過激な企画に事務所は抵抗しつつも、弱みを握られ受諾するしかなかった。第一弾の撮影は平日のショッピングモール内のスポーツ用品店。試着室で全裸となった美優は、北原の電話指示に従い、カーテンの隙間から尻や顔秘部を晒すポーズを次々と取らされる。羞恥

と興奮が交錯する中、ついに試着室でオ○ニ
ーに耽り、絶頂を迎える。北原が一時離れた
隙に一般客が現れ、カーテンを強引に開けら
れ、全裸の姿を目撃されてしまう。衆人視線
の中で人気女優は徐々に露出と快楽に溺れて
いくのだった。

■ 第一章 秘湯で放置プレイ

山間部にある秘湯の混浴露天風呂では、卑猥なゲームが繰り広げられていた。一人の全裸の美女が五人の中年男達から乳房やお尻、そして秘部までを同時に弄られ悶え狂っているのだ。そして、その全裸の美女は誰もが知る人気女優の神里美優であった。悶え狂う人気女優の傍にはゲスな女芸人、北原貴子や番組スタッフ達の姿があり、カメラマンは人気女優の淫らな姿を余す所なく撮影していた。弱みを握られている北原の命令で仕方なく深夜バラエティの露天風呂ロケに出演させられた美優は、そこで想像を絶する羞恥ショーに巻き込まれ、卑猥なジャンケンゲームを繰り返す中でいつしか女優としての品格を失いたただの発情したメス犬に堕ちていったのだ。そして今まさに、美優は中年男達の手によ

つて絶頂の瞬間を迎えようとしていた。
「ああっ、もうダメえ・・・イクっイクっイ
クっイクううー」
美優の断末魔の叫び声が露天風呂に響き渡り
人気女優は下半身を激しく痙攣させた後、グ
ッタリと項垂れ目を閉じた。
「イエーイ！俺達の勝ちだ！」
「ついに美優ちゃんをイカせたぞ！」
「それにしても随分と派手なイキっぷりだっ
たなあ」
中年男達は目の前でいった人気女優の姿に興
奮を抑えきれない様子で、イキ果てた美優の
姿を見ながらイチモツを扱き始めた。
「ああっ、美優ちゃん！」
男達はそう叫びながらイチモツから白濁の汁
を美優に向かって発射した。
露天風呂の中で恍惚とした表情を浮かべる
美優の顔は男達の汁に塗れて汚れ、何とも淫
らな輝きを放っていた。
「ああっ、今夜は最高だったぜ（笑）」

「俺、今でも夢見ているような気分だ（笑）」
「美優ちゃんのアソコの感触、俺一生忘れな
いだろうな（笑）」
「これからテレビで美優ちゃんを見る度に、
今夜のことを思い出しそうだぜ（笑）」
中年男達はそう言って笑いながら露天風呂か
ら上がり、北原達に挨拶をしてそのまま更衣
室の方へ帰って行った。
男達がいなくなった露天風呂には未だ快感
の余韻に浸っている美優と、女芸人の北原、
それに深夜バラエティのスタッフ達だけにな
った。北原は人気女優のイキ果てた姿を暫く
眺めると、美優の頬を引っぱたいて起こした。
「いつまで気持ち良さそうに寝ているの！ま
だ撮影本番中よ！」
北原の怒鳴り声が響くと、美優は一瞬で快感
の余韻から覚め、表情を強張らせた。
「ご、ごめんなさい・・・」
美優は激昂する女芸人にすぐに謝り、本番中
であるにも関わらず見知らぬ男達の手でいつ

てしまった自分が恥ずかしくて堪らなかった。
「美優ちゃん、アナタの負けよ。だからこれ
から罰ゲームを受けてもらうわ。朝までここ
で反省してなさい！」
北原はそう言うのと、番組スタッフ達を引き連
れて、露天風呂に美優一人を残して立ち去っ
たのだった。
「待っててください！私を置いて行かないでく
ださい！」
美優は思わぬ事態に慌て、必死に呼び止めよ
うとしたが、北原は全く相手にしなかった。
そして、もしも指示に逆らって勝手に露天風
呂からいなくなったら恥ずかしい動画を世間
に拡散すると脅したのだった。
「そんな・・・」
北原に逆らう事のできない美優は、もうこの
まま朝まで露天風呂に一人でいるしかなかっ
た。きつと、こんな秘湯には朝まで誰も来な
いだろうし、それまで一人で耐えさえすれば
どうにかなると、必死に自分に言い聞かせた。

而して、深夜の露天風呂に素っ裸のまま放
 置されてしまった人気女優は、朝が来るまで
 不安で眠ることも出来ず、一人で悶々とした
 時間を過ごすことになった。お願い、誰も来
 ないで……。きっと誰も来ないと思ってい
 ても、心の中ではずっとそう祈り続け、僅か
 でも物音がすると、恐怖に体が震えてしまっ
 た。
 露天風呂の近くにある温泉旅館の一室では
 北原達がモニター画面を面白そうに見つめて
 いた。そこに映っているのは他ならぬ女優で
 北原達は事前に露天風呂の傍に隠しカメラを
 設置していたのだった。
 「美優ちゃん、朝になったら私達がホントに
 迎える来ると信じてるのかしら（笑）」
 北原がモニターを見ながらそう呟くと、周り
 にいるスタッフ達から笑いが漏れた。
 日が昇り始め、木々に囲まれた露天風呂の
 周りも明るく照らされようとしていた。露天

風呂の外に座り込んでいた美優は、空を見上げながら、これでようやく罰ゲームが終わると思ったのか安堵の表情を浮かべた。お願い早く戻ってきて。・・。美優は憎き女芸人のことが今は待ち遠しくて仕方なかった。やがて、空はさらに明るくなり、美優のいる露天風呂の周りも昨夜には見えなかった景色がハッキリと浮かび上がっていた。多忙なスケジュールの美優は連続ドラマの撮影に戻らなければならず、もうすぐこの温泉地を出発しなければいけないはずだった。お願い、早く戻ってきて。・・。美優は素っ裸のまま近くの小道に北原達が現れるのをずっと待っている。・。そしてその時、遠くの方から足音が聞こえて、続いて人の話し声も聞こえてきたのだった。やつと戻ってきてくれたんだ。・・。美優は北原達が戻ってきてくれたのだと思い、表情を少し和らげた。これで北原からオフアールされた今回の仕事は終わり、やつと帰れると思

うと嬉しくて堪らず、美優は小道の方からや
つて来る足音を身を乗り出して待ち構えた。
しかし、美優は聞こえてくる足音や話し声
に何となく違和感を覚え始めた。それはどう
やら北原達の声ではなく、また足音もかなり
の大人数のように聞こえたのだ。まさ
か・・。美優の表情は再び緊張感に強張り
慌てて露天風呂の中に入って体を隠した。
「やっぱ朝は気持ち良いわねえ」
「朝風呂呂なんて最高だわ」
「せっかくだからゆっくり満喫しましょ」
年輩の女性達の話し声が聞こえてきたかと思
うと、美優の前に二十人近い婦人の集団が現
れたのだった。
「あれ、こんな朝早くから誰か入っているわ
よ」
「あんな若い子が一人で入っているなんて珍
しいわねえ」
「ねえちよつと、あの子もしかして、女優の
神里美優ちゃんじゃない」

「まさか、こんな所に神里美優がいるわけないじゃない」

「でも、良く見ると確かに似てるわねえ」

五十代から六十代の婦人達は、露天風呂に入っている若い美女に気づくと、好奇に満ちた眼差しを向けながら、美優の方に近づいていった。

「ねえ、アナタもしかして女優の神里美優ちゃん？」

一人の婦人が美優の顔をジロジロ見ながら問い掛けるのと、美優は恥ずかしそうに頷いた。

「キャット、皆さん、この子やっぱ女優の神里美優ちゃんよ！」

その声は辺りに響き渡り、その場に居る全員が驚きの表情を浮かべながら美優の周りに続々と集まってきた。

ああん、恥ずかしい・・。露天風呂の中で二十人近い婦人集団にガツチリと周りを囲まれてしまった美優は、すっかり身動きがとれなくなり羞恥に喘いだ。

「美優ちゃん、こんな所で一人で何しているの？」
一人の婦人が問い掛けると、美優は昨夜ここ
で番組のロケをしていて、温泉が気持ち良か
ったのもう一度入りに来たと嘘の告白をし
た。
「アレ？美優ちゃん何も持っていないみたいだ
けど、もしかしてここまで裸で来たのかし
ら？」
露天風呂の中にいる美優がタオル一枚持つて
いないことに気づいた婦人がそう問い掛ける
と、美優は恥ずかしそうに「はい」と答えた
。お願い、これ以上私に構わないで・・・。
厚かましい婦人集団に絡まれてしまった美優
は心の中でそう叫んでいた。しかし、ミーハ
ーな婦人集団が露天風呂に一人で入っていた
人気女優を放っておくわけもなく、皆、目を
ギラギラと輝かせながら美優の体を見つめた

。

。

「女優ちゃん、随分と綺麗な体ねえ。さすが女優さんだわ。せっかくだから私達に良く見せてくれないかしら」

一人の婦人がそう願い出ると、周りにいる他の婦人達からも「見たーい！」「見せてえ！」という声が上がり、皆、若い人気女優の裸を見たがった。

「それは・・・ごめんなさい」

美優が羞恥に震えながら申し出を断ると、周りを取り囲む婦人達は一斉に目を鋭く光らせて何とんでもこの美しい女優の裸を良く見てやろうと、心に火を付けたのだった。

■ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報を配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ そのほか SNS

https://x.com/ebisawa_K

https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/

<https://www.pixiv.net/users/70200870>

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不幸事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>